

## クロツラヘラサギの現状と受難の原因

李曉民 東北林業大学

候廣立 綏中県林業局

張紹蘭 ハルビン市104中学

訳 福井和二

概要；クロツラヘラサギは幅広く、東アジア各国および中国東北、華北、長江中流域に分布し、近年来環境の変遷が激しく、分布域が縮小し、個体数も急速に下降している。現在、この鳥は世界中で400羽に満たない数とされている。絶滅が心配されるところの状態である。速やかな保護対策が期待される。

クロツラヘラサギ (*Platalea minor*) はコウノトリ目、トキ科、ヘラサギ属の大型渉禽で、60年代までは東アジアに広く分布していたが、近年になって、環境の激しい変化と人間による障害で、彼らの生息域が激減することとなり、急速に数が減少し、現在では世界中の個体数が400羽足らずとなった。中国にはそのうち約350羽が分布している。《レッドデータブック》では絶滅危惧種とされている。中国の《中国国家重点保護動物名録》では二級保護鳥類にランクされている。

### 分布の現状

クロツラヘラサギの繁殖地は中国東北地方、朝鮮と韓国、越冬地は日本、朝鮮、韓国、ベトナム、カンボジア、および中国の長江中、下流域、東南沿海部、台湾、香港などである(図1)。

記載によると、クロツラヘラサギの繁殖地は中国黒龍江省(とくに三江平原)、吉林省、内蒙古自治区とある。渡りの季節には、松花江流域、鴨緑江河口、山東半島、および北京付近でも見られたと記されている。しかし、70年代以来、東北、華北ですでに跡を断ち、なかでも三江平原では30年来見ることがなくなった。長江中、下流域および東南沿海地区でもその分布域は狭くなり、個体数もきわめて少なく、現在の越冬地はわずかに広東省、海南島、江蘇省、貴州省などの4箇所の保護区に限られている。

台湾はクロツラヘラサギの中国における世界最大の越冬地で、世界の2/3のクロツラヘラサギが越冬していることで知られ、その主要な越冬地は台南の曾文溪口地区である。1985年発見されてから以来年々その数が増え、1995年1月には最大286羽を記録している。この他にも台北の関渡、五股、彰化、高雄などにも越冬の記録がある(表2)。

香港の米埔はクロツラヘラサギの第二の重要な生息地である。1956年にクロツラヘラサギの越冬が発見されて以来、毎年越冬記録があり、最近の数年、その数が逐次増加し、1994年の越冬期には84羽を数えた(福田自然保護区の数を含む)(表2)。

1960年代から1991年の間、なんとクロツラヘラサギは朝鮮西海岸のTok-To島と付近の岩礁で毎年6つがい前後が繁殖していたのである。これらの島嶼に30羽ほどが渡来し、近年その数が増えつつあり、1995年には45羽に達した。

1991年韓国 South cholla 省 Chilsamdo 島で1つがいの繁殖個体が発見された。1994年には韓国の非武装地帯近くのYo-do 島上にクロツラヘラサギの一群を見つかり、その数21羽(14羽の幼鳥を含む)。総計5~10つがい繁殖していた。1995年7月 Kunggi 省の Sunduri で20羽の非繁殖個体群が発見された。

クロツラヘラサギの少数は日本、韓国、ベトナムなどでも越冬している。韓国の主要な越冬地

は濟州島の Songsannp'o および釜山近くの Nakdong 河口である。1994年1月濟州島における越冬個体の記録は15羽。日本の博多湾, Zubaiji 河, 有明海, Kyushu の Izumi と, 沖縄 Manko の干潟地帯でわずかな越冬個体が見られている。鄭鐘烈(未発表)が過去10年の Imaza 県の博多湾での観察では、毎年いずれも観察され、1985年には50羽、1994年には10羽が観察されている。1993~1994年に東京湾および Mannose 河口で越冬個体が発見された。Mannose 河口では1993~1994年冬に6羽、1994~1995年冬には4羽が観察された。この外、Moore は1993年に Miyazaki で4羽、Isahaya で2羽、Snoe で2羽を記録している。

ベトナムでのクロツラヘラサギでは主に紅河河口で観察される。すなわち、xuan Thuy 自然保護区、Day River 河口および Van Uc 河口の3越冬地である。1987年冬 xuan Thuy で68羽の越冬個体を記録し、1995年2月には34羽を記録している。Day River 河口では1994年2月、41羽が観察され、Van Uc 河口で1994年3月2羽の越冬個体が観察されている。

この外、タイの Parkan により1989年1月 Bangpoo で幼鳥3羽が見られている。また、カンボジア、ヒリピン、ブルネイなどでも観察の記録があるが、近年は観察されていない。

受難をもたらした原因の可能性

クロツラヘラサギの個体数が減少した経緯や原因は現在のところ明かではない。しかし、彼らの未来が、人間の生活、経済活動により厳しい脅威に曝されていることことは確かである。急速な経済の発展により、多くの湿地が開発され、鳥類の生息環境に大きな変化がおり、採食場所や繁殖場所が激減した。クロツラヘラサギも例外なく、繁殖、採食場所を失い大きな影響を受けた。養魚場やエビ養殖場はクロツラヘラサギのよい採食場であった。しかし、香港と台湾の最近の状況はこれらを干拓し、工業用地や住宅地とし、彼らの生存に重大な圧力をかけることとなった。香港では約40%の養魚場、エビ養殖場がこの10年間で失われていった。

狩猟は動物に対し直接の脅威をもたらすが、狩猟者が意識的にクロツラヘラサギを捕殺するのではなく、毎年誤って打ち落とされる事故が発生している。1992年12月台湾で3羽のクロツラヘラサギが誤って殺され、これはこの個体群の3%である。

中国およびベトナムの沿海地区での、急で、際限ない活動は、疑いもなくクロツラヘラサギの採食場所にきわめて大きい攪乱をもたらした。過度の漁獲は必然的にある種の魚の減少をもたらした。また、クロツラヘラサギが誤って魚網に係り死亡する例もある。

環境汚染は水質悪化をまねき、直接クロツラヘラサギに障害を与え、あるいは繁殖率を低下させる。これらによって個体群が減少し、自然環境の変化に対するクロツラヘラサギの抵抗力はますます低下し、厳しい自然災害、疾病の発生などに敏感になり、その他の要素との相互作用すべてにより種全体の絶滅の危機をもたらしている。この外、個体群が小さいことから近親交配となり、個体間の遺伝的多様性を喪失し、これもまた、きわめて容易に種の絶滅がひきおこされる原因となる。地球上に残り少ないクロツラヘラサギの種と生息地すべてを保護堅持するように、関係機関に強く注意を促す。

表1. クロツラヘラサギのわが国大陸の越冬地と数

場所	数(羽)	観察年	報告者(年)
広東福田自然保護区	28	1988.1	陸健健(1990)
広東福田自然保護区	10	1990.1	陸健健(1994)
広東福田自然保護区	48	1993.1	陸健健(1994)
海南東寨港自然保護区	13	1993.1	陸健健(1994)

表2. クロツラヘラサギの香港米埔自然保護区および台湾越冬地の数

観察年	台湾/羽	香港/羽
1984.1		34
1985.1		16
1986.1		20
1987.2		28

場所	数(羽)	観察年	報告者(年)	観察年	台湾/羽	香港/羽
海南東寨港自然保護区	3	1995.1	劉小茹(1996)	1988.3		42
江蘇塩城自然保護区	8	1992.1	陸健健(1994)	1989.1	144 (130)	47
貴州草海自然保護区	10	1991.1	陸健健(1994)	1989.12	107 (105)	50
				1990.2	150 (145)	42
				1990.12	(140)	25
				1991.4	4	57
				1991.12	193 (191)	30
				1992.2	180 (178)	47
				1992.11	146 (143)	62
				1993.1	(178)	73
				1993.12	186 (176)	70
				1994.1	(192)	84
				1994.12	213 (204)	
				1995.1	299 (286)	
				1996.2	252 (248)	

(括弧内は文溪口における個体数)